

日本沿岸海域におけるムツ属魚類分布の状況

○湯浅航平・小高純平・糸井史朗・高井則之（日大生物資源）
野田勉（水研セ宮古）・秋元清治（神奈川県水産課）
明神寿彦（高知水試）・池田譲（琉球大理）
増田育司（鹿大水）・吉原喜好・杉田治男（日大生物資源）

【目的】日本近海に生息するムツ属魚類は、ムツ *Scombrops boops*、クロムツ *Scombrops gilberti* の2種が知られている。両種は外部形態が酷似しているため判別が困難で、生態は不明な点が多い。そこで本研究は、分子生物学的手法を用いて日本の沿岸域で採捕されるムツ属魚類の種判別を行って両種の存在比を調べ、その生態を解明することを目的とした。

【方法】試料は岩手県から沖縄県までの全国各地で採捕されたものを使用した。試料魚筋肉から全 DNA を抽出し、PCR法によりミトコンドリア DNA の 16S rRNA 遺伝子を増幅した。その後、増幅 DNA 断片を制限酵素 *EcoNI* および *MvaI* を用いる RFLP 法に供し、観察されるバンドパターンからムツおよびクロムツの種判別を行った。PCR-RFLP 法で判別できなかった試料については、当該遺伝子領域の塩基配列を決定し、系統解析により既知のものと比較した。

【結果】PCR-RFLP 法および系統解析により全国で採捕されたムツ属魚類の種判別を行った結果、新潟県、千葉県、鳥取県、高知県、長崎県、鹿児島県および沖縄県で採捕された試料は全てムツと判別された。また岩手県、三浦半島および伊豆諸島沿岸では両種が検出された。中でも岩手県沿岸で採捕された幼魚は全個体がクロムツと判別された。以上の結果から、クロムツの分布域は岩手県沿岸から伊豆諸島沿岸にかけての海域に限定されていることが示唆された。